

平成 30 年 11 月 23 日（金）

# 飯盛城跡 現地説明会資料

調査場所：御体塚曲輪・石垣 89

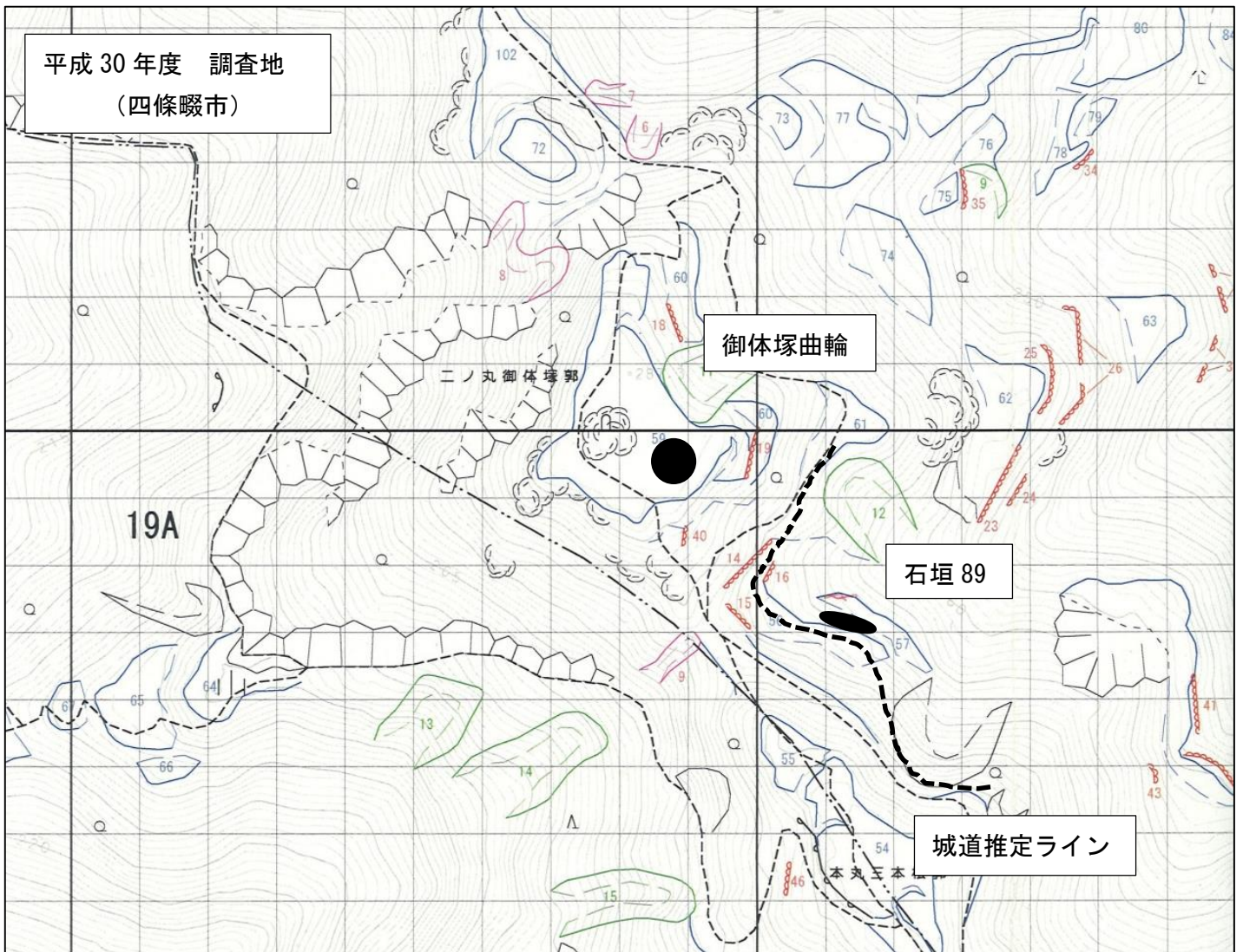
四條畷市教育委員会



飯盛城は飯盛山に築かれた戦国時代の山城です。織田信長より先んじて、京都を抑え畿内一円を支配した三好長慶が永禄 3 年（1560）年に入城し、ここが政治と文化の中心になりました。

飯盛城の規模は、東西約 400m、南北約 650m と考えられており、大阪府下最大の山城です。飯盛城が築かれた飯盛山は、南北に走る稜線は痩せ尾根で、西側は急峻な尾根が幾筋も張り出し、東側は室池を水源とする権現川に刻まれた深い谷があり、北側は細く突き出し急激に高度を下げています。山頂からの展望はすぐれ、大阪平野全体はもちろんのこと淡路島まで、北端の史跡碑がある曲輪からは京都方面まで一望することができます。西側山麓には、河内平野を南北に縦貫する東高野街道が走り、北側は清滝街道、南側は中垣内越え（古堤街道）が河内と大和を結んでいます。また当時西側には大きな深野池があり、水運で堺と結ばれていました。このように、飯盛城は自然の要害に恵まれ、水陸交通の要衝に位置していると言えます。

城の遺構としては、大小 90 余りの曲輪（平坦地）が広がり、堅堀、堀切、土塁、石垣が残っています。城域の南約 3 分の 2 が大東市で城の南からの入口にあたる虎口、城中最大の規模を持つ曲輪である千畳敷曲輪、最高所の高櫓曲輪、展望台のある曲輪と尾根上に曲輪が北に続き、四條畷市域に入ると御体塚曲輪、史跡碑のある曲輪へと続いています。そしてそれぞれの曲輪から東西に派生する尾根上にも小曲輪が連続して配置されています。石垣は現在確認されているものでは、東斜面に多く残っています。



ごたいづかくるわ

**【御体塚曲輪】**

この曲輪は、その中央に飯盛山を形成している花崗岩が大きく露出しているのが特徴的な曲輪で、永禄7年(1564)に飯盛城中で亡くなった三好長慶を仮埋葬したと伝わるところです。

今回は昨年度の調査範囲の続きを確認するためにその南側にトレンチを設定しました。表土層下で当時の地層を確認し、南東側では塙(せん)を立てて配置した箇所(塙列)

とその東側に小さな花崗岩の礫を敷いた遺構を確認しました。昨年度の調査で礎石と考えられる花崗岩や瓦、塙などが出土したことから、この場所に建物があつた可能性を考えていましたが、今回の調査で確認した遺構の状況から、その可能性がさらに高まったと考えています。

土師皿や瓦質土器・鉄釘・銅銭などの遺物が、小礫の上面から出土しています。





平成 29 年度調査（南東より）



土師皿、高台付灯明皿、瓦質擂鉢



塼



平瓦、丸瓦、雁振瓦

### 【石垣 89】

飯盛城は、日本の城郭に本格的な石垣が採用されるようになる直前の段階に位置付けられる石垣が多用されている山城です。今回調査を行っている石垣は、昨年度調査を行った石垣の南東側に位置し、新たに発見した石垣です。調査により石垣の上面が幅約 2 m で、一部が階段状になっている「城道」であることが判明しました。



平成 30 年度調査 石垣 89



平成 30 年度調査 城道



平成 29 年度調査 石垣